

## P-139

### 慢性期心疾患患者における下肢筋力強化訓練療法を併用した運動療法の効果

○和田 千恵子<sup>1</sup>、和田 攻<sup>2</sup>、篠田 千恵<sup>2</sup>、番谷 巖<sup>3</sup>、坂井 俊介<sup>3</sup>、番谷 由美子<sup>3</sup>、  
白川 千鶴<sup>3</sup>、紙谷 貴裕<sup>3</sup>、鍋田 千夏子<sup>4</sup>、長澤 千和<sup>4</sup>、長谷川 弥生<sup>4</sup>、旅 佳恵<sup>5</sup>

<sup>1</sup>社会保険高岡病院 運動指導室、<sup>2</sup>社会保険高岡病院 内科、<sup>3</sup>社会保険高岡病院 リハビリテーション部、<sup>4</sup>社会保険高岡病院 看護局、<sup>5</sup>社会保険高岡病院 薬剤部

【目的】慢性期心疾患患者において、下肢筋力訓練を併用した多種目の運動療法(以下心リハ)を行い、その短期効果を検討した。【対象】当院外来通院中で軽度の運動耐容能の低下を認める心疾患患者9名(男性8名、女性1名 平均年齢67.9歳)。【方法】心リハは週1回、当院運動指導室にて集団で6ヶ月間実施した。内容はインターバル歩行、リズム運動、バランス運動の他に毎回、自重を用いた下肢筋力トレーニングを行った。身体機能と、運動耐容能(CPX施行)を評価し、心リハ前後で比較した。【結果】身体機能では、30秒椅子立ち上がりと開眼片足立ちが有意に増加した。9例中、peakVO<sub>2</sub>は3例(33%)、ATは6例(67%)に増加がみられた。心リハ前後で、運動耐容能と身体機能の関係を検討したところ、ATの変化率と膝伸展筋力の変化率の間に正の相関関係を認められた( $r = 0.73$ 、 $P < 0.05$ )。【考察】今回我々の行った6ヶ月間の心リハでは、身体機能の改善が認められた。またATの増加は、膝伸展筋力の増加と密接に関係していた。慢性期心疾患患者において、下肢筋力訓練を併用した多種目の運動療法を行うことは、筋力を増加させ、また日常生活能力の向上に有効であると考えられる。